

2011年10月2日

ファイナル・メディア・コンファレンス

出席者

ガウラブ ジル (チーム MRF)

田口 勝彦 (チーム MRF)

アリスター マクレイ (プロトン モータースポーツ)

新井 敏弘 (チーム アライ)

司 会: ようこそ、そしておめでとうございます! ジル、おめでとう。初めての日本で勝ちましたね。どれくらい難しかったですか?

ジ ル: ここで APRC を勝つのは簡単じゃないですね。まあ、どこでもこんな勝負になったら簡単ではないと思いますが。速いストレートが多かったし、スーパー2000 の選手は、明らかに強敵でした。でも、僕たちは昨日いい走りだったと思います。問題はあったし、田口にとってはビッグタイトルだから、僕のポジションを奪おうとハードプッシュでしたから。車の問題点を解決するために、サービスで本当にがんばってくれました。今日はポジションをキープすればよかったので、高速ステージを何本か走るだけだったので、ほかを抑えてマージンをキープできました。その後は劇的なことはなく、最後まで走ればよかったんです。

司 会: 普通に考えると、田口さんはこのラリーをよく知っているの、より勝機があったように思います。いったい何があったのですか。つまり、田口さんは少し遅かったように思うのです。チームの使命を遂行するために、どのようなことが難しかったのでしょうか。WRC ではチームの意向というものがあることは知っていますが、PWRC では、私は聞いたことがありません。一観戦者としては、とても興味深いことです。少し説明して頂けますか。

田 口: (1 番目の質問について) 一番のミステイクは昨日テストしたコースと本番のコースが違ったことです。滑り具合が違っていました。デイ1の午前中、ループで大騒ぎしましたが、午後からはR4の運転に慣れてきて良い感じになり、良いタイムを出せるようになりました。(2 番目の質問について) デイ1の夜、シルの車にトラブルが発生しました。現在、私よりシルの方がポイントが上で、アトキンソンと優勝争いしている状況です。アトキンソンがリタイアしたことで、(シルが)チャンピオン争いに戻れるようになります。そのため、R4 キットを快くアトキンソンに譲ったんです。

司 会: 新井さん、ラリー北海道でまた勝ちましたね。楽に勝てたのでしょうか。確か何分も差が付いてい

たと思いますが。

新井： 全然余裕ではないのですが、S2000 が速かったので、昨日はタイムがクリスとアリスターが常に上下どちらかにいるような形でずっと闘っていました。最後は雨に降られて、SS8 では遅れて最終的に 10 秒差までクリスとの差が縮まって、クリスがこのままいくとまずいというところで止まってくれたのでまだよかったのですが、ただ、ちゃんと走っていれば S2000 のほうが速いかなという感じがします。今回は、アリスターがパンクしたり、クリスが止まっちゃったので、なんとか乗りました。

司会： 今日の成績でアリスターとクリスとのポイントの差は 2・3 点になり、チャンピオン争いに加わりましたね。このため、今回の勝負では田口さんがあなたにプレッシャーを与えることになると思いますが、中国ではプロトンとの闘いでのチャンスについて、どう感じていますか。

ジル： 中国ラリーはいつもフィニッシュするのが難しいですね。ラフで長距離なので、かなり難しいコンディションです。昨年、中国ラリーに参戦しましたが、プロトンのスーパー2000 がとても速かったです。ですから、今年もプロトンは相当速いと思います。また、中国ラリーが絶対的に楽ではないのが、コンクリートのステージが多いことです。全体のおよそ 40%から 50%はコンクリートだと思います。私たちのマシンはグラベルタイヤなので、コンクリートでは不利ですね。それに対応するしか方法はありません。

司会： 勝つか負けるかという感じになりますかね？

ジル： 他には何もすることはないです。勝つか負けるかです。3年ぶりにタイトルに手が届きそうなので、みんな明らかにそれに目標にしています。ちゃんとタイトルをとれるか、逃してしまうかどうかです。

司会： 新井選手、今回はR4車での参戦ですね。N車に比べてより簡単だとか車体がとても軽いだとかで、何か違いはありますか？

新井： 一概にはいえません。R4のほうがN車両よりもWRカーやグループAに近いので、車に慣れが必要と感じました。ただ、極端にR4マシンのほうが速くなるかというと、乗りやすくなるが、エンジンパワーが変わらない分、タイムのよいところとあまり変わらないところがみられました。(R4マシンが)もう少し進化すれば、S2000に対抗できるだろうと思います。現時点ではちょっと壁があるのかなと思います。

司 会： アリスター、表彰台おめでとうございます。チームメイトとここにいるジルに勝てるチャンスはどのくらいあると思いますか？

アリスター： 彼らはとても優秀だと思います。クリスやプロトンにとって残念なことにここには1台しか残っていないので。しかし、司会の方のいうとおり、優勝に王手をかけることができました。37点もの差を詰められて、3人のドライバーが僅かなポイント差で接戦となりました。次は熾烈な戦いになるでしょう。コンクリートとグラベルの混ざったラリーなので、とても難しいラリーになると思いますが、楽しみにしています。

司 会： 今のマシンと R4 をくらべてどうですか？これからの中国での舗装の戦いに勝てると思いますか？

アリスター： 難しい戦いになると思います。去年中国に行ったときには、曲がりくねっていて坂も多かった。R4車、サトリアはそんなところでは良い走りを見せるでしょう。しかし他の場所、舗装面などではS2000車が強いと思います。しかし、結局、総合的に見れば2つの車はほとんど同じ結果を残すでしょう。